

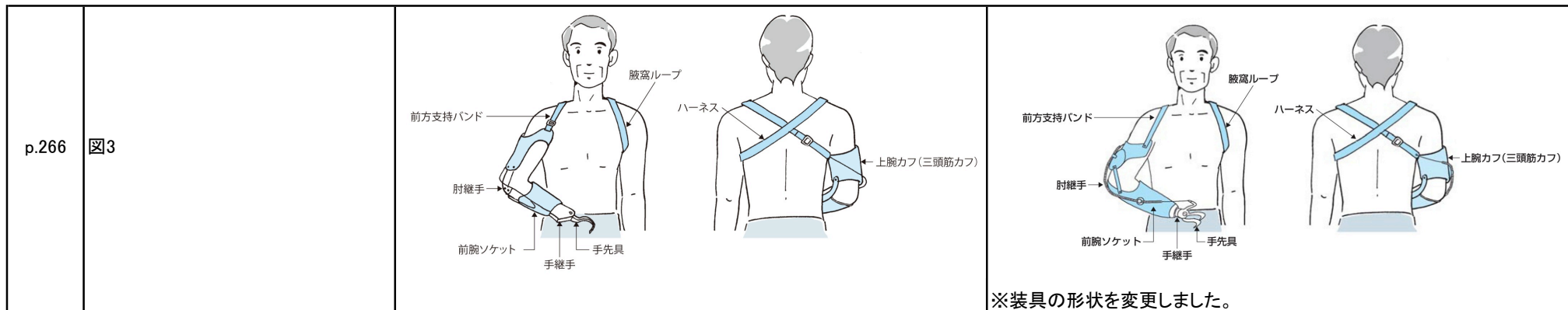
『作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 4 身体障害作業療法学』第1版第1刷(2010年12月20日)に誤りがありました。

ここに慎んでお詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正させて頂きます。

(下記PDFファイルをご覧ください)

(2012年2月8日 メジカルビュー社編集部)

ページ	該当箇所	誤	正
p.24	上から1行目	…自動および他動運動(図5)を <b>使う</b> (表4)。	…自動 <b>運動</b> 、 <b>自動介助運動</b> および他動運動(図5)を <b>行う</b> (表4)。
p.24	表4の「自動介助運動」の解説1行目	…通常、 <b>理学療法士</b> が…	…通常、 <b>作業療法士</b> が…
p.24	表4の「自動運動」の解説2行目	…筋力を <b>増加</b> し、…	…筋力を <b>増強</b> し、…
p.26	図4のタイトル	<b>自己他動運動例</b>	<b>自動介助運動例</b>
p.26	図4(a)の解説	… <b>自己他動運動</b> では…	… <b>自動介助運動</b> では…
p.26	図4(b)の解説	…肩外旋を行っている。	…肩外旋を行っている。 <b>b-2: 前腕の運動のみ。</b>
p.26	図4(f)の解説	…母指MP・IPを全体を広げる。	…母指MP・IPを <b>伸展させ、母指全体を広げていく。</b>
p.27	図5(a)のタイトル	肩関節屈曲・外転	肩関節屈曲( <b>a-1</b> )、外転( <b>a-2</b> )
p.27	図5(d)の解説	…前腕の <b>回内・外の運動を行う</b> 。	…前腕の <b>回外を行う</b> 。
p.27	図5(f)のタイトル	肩関節外旋	肩関節外旋( <b>f-1, f-2</b> )、 <b>内旋(f-3, f-4)</b>
p.41	表10の「弛緩期」	弛緩期	弛緩期( <b>初期</b> )
p.41	表10の「適応回復期」	<b>適応</b> 回復期	回復期( <b>適応</b> )
p.86	下から13行目	②生活関連活動( <b>APDL</b> )	②生活関連活動( <b>IADL</b> )
p.89	図10の解説	<b>麻痺側手</b> を…	<b>麻痺手</b> を…
p.90	上から7行目	… <b>APDL</b> 訓練…	… <b>IADL</b> 訓練…
p.90	図13の解説	…を把持し、 <b>右</b> の籠へ…	…を把持し、 <b>左</b> の籠へ…
p.92	上から4行目	…ずとも、 <b>活動レベル</b> は…	…ずとも、 <b>活動や参加レベル</b> は…
p.92	下から6行目	作業療法では主に <b>老人保健施設</b> …	作業療法では主に <b>介護老人保健施設</b> …
p.93	まとめのチェック「□□7」の答え	Functional <b>Independent</b> Measure (FIM)	Functional <b>Independence</b> Measure (FIM)
p.93	まとめのチェック「□□9」の答え	…ADLおよび <b>APDL</b> 訓練、…	…ADLおよび <b>IADL</b> 訓練、…
p.160	図39	<b>腫れている</b>	<b>皺が消失し独特の光沢が認められる</b>
p.222	図42(a), (b)	<b>Shot</b> Opponens Splint	<b>Short</b> Opponens Splint
p.223	図42(e), (f)	<b>Shot</b> Opponens Splint	<b>Short</b> Opponens Splint
p.225	図44(e)	<b>Shot</b> Dorsal Outrigger …	<b>Short</b> Dorsal Outrigger …



※装具の形状を変更しました。

p.266 図3

p.390 上から8行目 ④コミュニケーション: 発語, 書字, キーボード操作

p.412 「エピソード」下から8行目 ……病室を後にした。Aさんは……を送ることができた(図12)。

p.414 「遺伝子異常による筋繊維の再生不全」の一番下の図 筋線神経の減少

p.414 「遺伝子異常による筋繊維の再生不全」の一番下の図 筋線神経の減少

p.412 「エピソード」下から8行目 ……病室を後にした。作業療法室に戻り、母指の伸展で利用できるナースコールを作製し、Aさんに渡した(図12)。Aさんは……を送ることができた。

段階	内容	段階	内容	段階	内容
1	 500g以上の重量を利き手に持って前方へ直上挙上する	4	 重量なしで利き手を前方へ90°まで挙上する	7	 机上で体幹の反動を利用し肘伸展による手の水平前方への移動
2	 500g以上の重量を利き手に持って前方へ90°まで挙上する	5	 重量なしで利き手を肘関節90°以上屈曲する	8	 机上で体幹の反動を利用し肘伸展を行った後手の運動で水平前方への移動
3	 重量なしで利き手を前方へ直上挙上する	6	 机上で肘伸展による手の水平前方への移動	9	 机上で手の運動のみで水平前方への移動

(石川 玲ほか編: 筋ジストロフィーのリハビリテーション, 医歯薬出版, 2002.より改変引用)

※「6～8」のイラストを変更しました。

p.426 表1の最左列下から2つ目 上記に因らない2次的な障害

p.426 表1の最左列下から2つ目 上記2つに因らない2次的な障害

p.429 下から13行目 ……直径1mmの腫瘍が…

p.429 下から13行目 ……直径1mmの悪性腫瘍が…

p.433 下から12行目 ……が2006年に…

p.433 下から12行目 ……が2008年に…

p.433 下から11行目 ……全体の54%が…

p.433 下から11行目 ……全体の63%が…